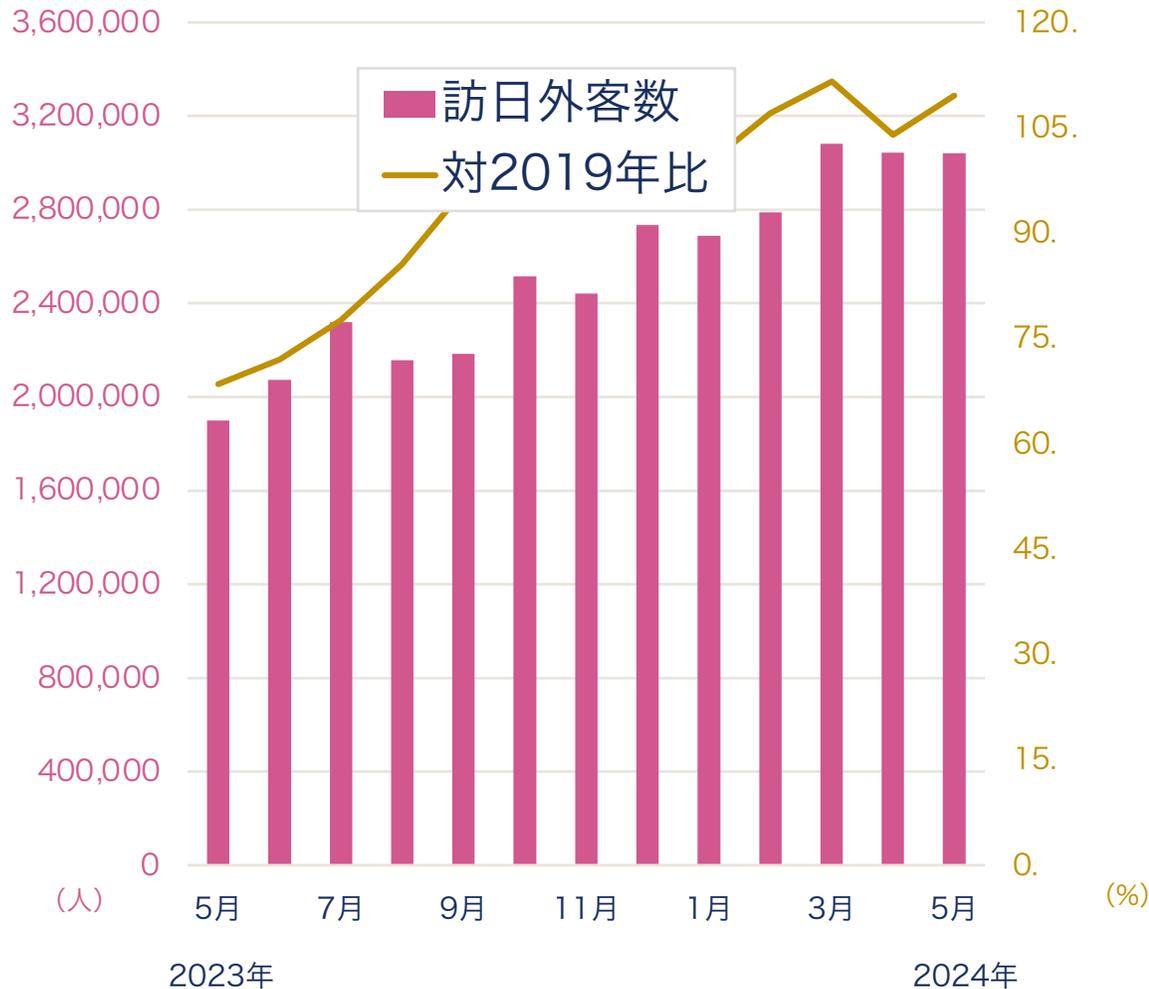


2024年7月 インバウンドマーケット資料





5月の訪日外客数 304万人 3ヶ月連続の単月300万人超え

2024年5月の訪日外客数は、前年同月比160.1%、2019年比109.6%の304万100人。3ヶ月連続での300万人突破となりました。

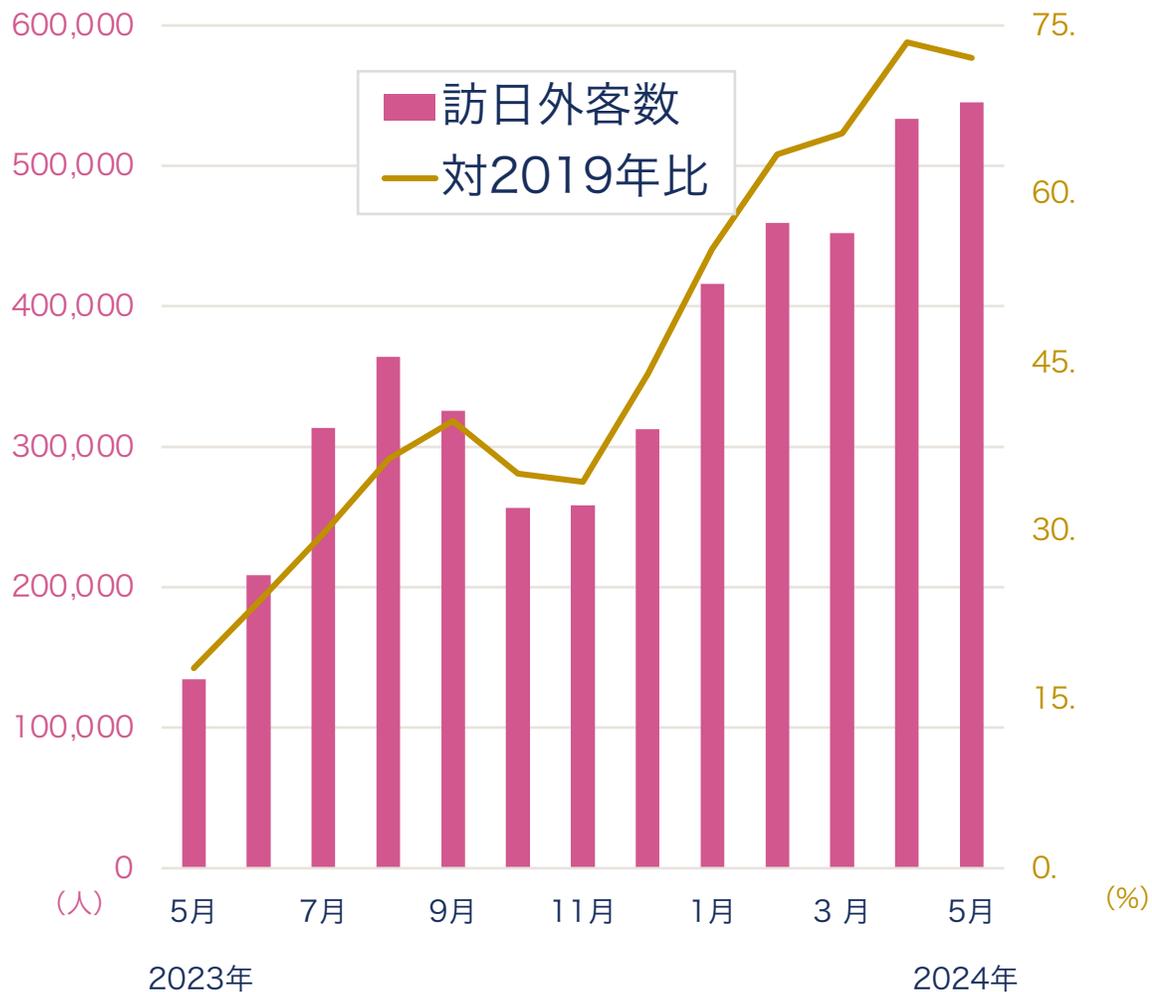
5月までの累計は1,464万人となり、今年の年間訪日外客数は、ほぼ確実に3,000万人を超えてくると見込まれます。

	2024年5月 主要国 訪日数 (人)	5月 対2019年比 (%)	5月 対2023年比 (%)
総数	3,040,100	109.6	160.1
韓国	738,800	122.4	143.3
中国	545,400	72.1	405.5
台湾	466,000	109.3	153.6
香港	217,500	115.1	140.9
シンガポール	62,700	166.5	126.0
インド	29,100	146.1	161.7
米国	247,000	157.4	134.7
英国	39,100	123.6	141.0
豪州	66,500	143.9	162.9
メキシコ	11,500	209.8	135.9
中東地域	14,000	246.5	160.1

主要な市場のうち8割で 過去最高の訪日人数を記録

23市場のうち19もの市場において、5月として2009年の計測以来過去最高を記録し、インドでは単月での過去最高も更新しました。

東アジアでは韓国、東南アジアではシンガポールが押し上げ要因となったほか、インドやヨーロッパからの訪日も好調です。

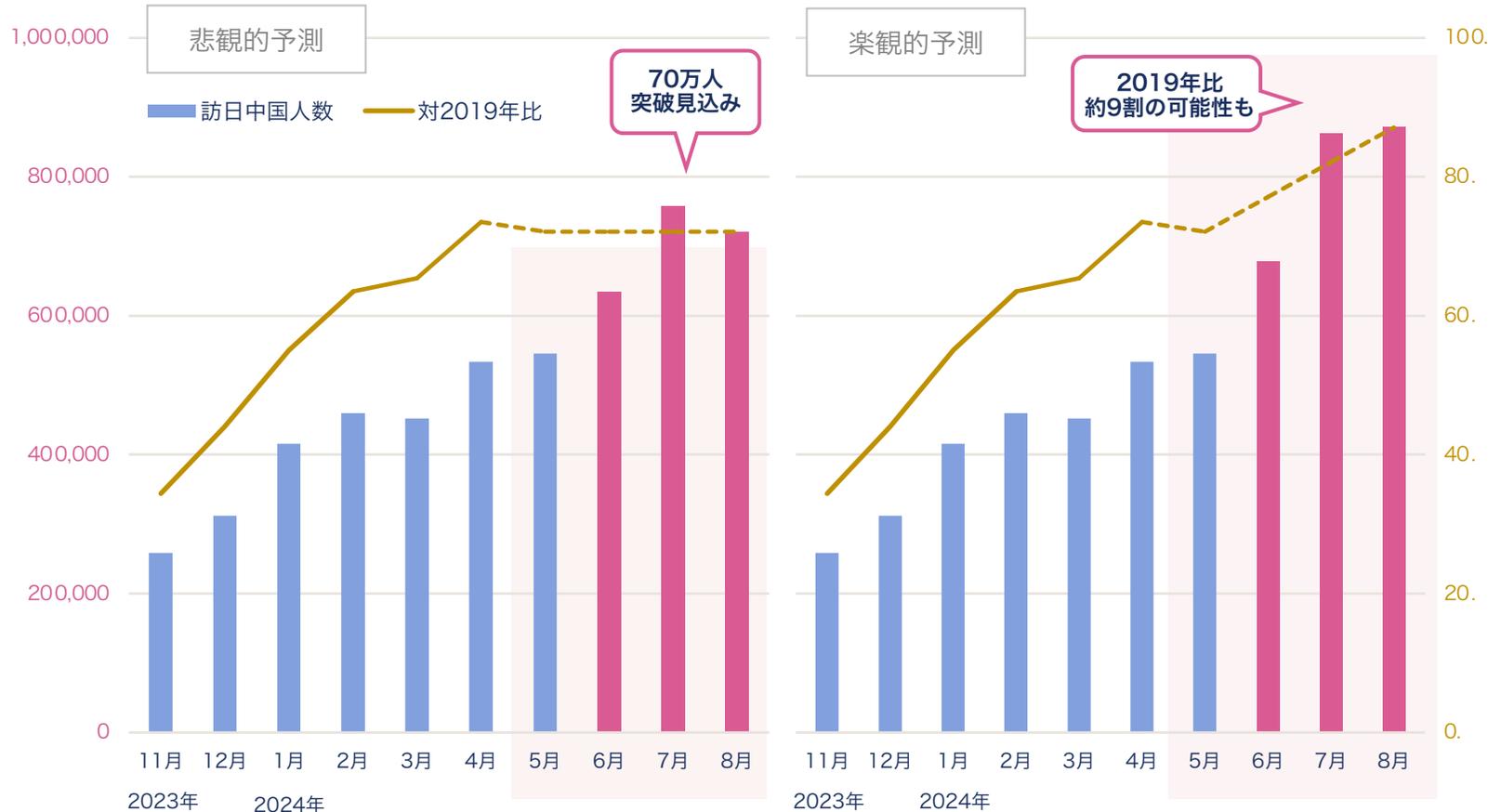


訪日中国人数は54万人 2019年比72%

2024年5月の訪日中国人数は、2019年比72.1%の54万5,400人。

労働節休暇の影響や航空便の増便もあり、前月を上回る数の中国人観光客が訪れる結果となりました。

夏休みシーズン（ハイシーズン）には70万人超えの見通し 現在訪日客数トップの韓国を追い抜く可能性も



訪日中国人観光客の回復率は2024年2月まで連続4ヶ月間で毎月約10%増加、さらに直近の5月には2019年対比72.1%の54万人まで回復しました。

2019年7-8月、中国からの訪日客数は100万人を超えていたため、このまま2019年対比72%を維持した場合、ハイシーズンの7-8月の訪日客数は70万人を超える見通しとなります。

さらに回復率が増加した場合は、ハイシーズンの7-8月に90万人近くの中国人観光客が訪れる可能性もあります。

訪日客の消費単価3割増 観光白書、コト消費に成長余地

政府は6月18日、2024年版の「観光白書」を閣議決定しました。
インバウンドは22年以降に急回復し、**23年の1人あたり消費単価は19年比で31%増加**。
体験型の「コト消費」に成長の余地があり、地方でもツアー商品で誘客を見込めると指摘しました。

なかでも白書は、「体験消費を含む**コト消費の成長の兆しがみられる**」と分析しています。
23年における、スポーツ観戦のチケットや美術館の入場料などの「**娯楽等サービス費**」は
1人あたり平均支出額が9,097円と、19年比152%にまで増加しました。

また白書では、インバウンドの都市部への集中がコロナ禍後に加速しているとも説明されており、こうした点をふまえ「**地方誘客、地方部の消費拡大のより一層の推進が必要**」だと訴えています。



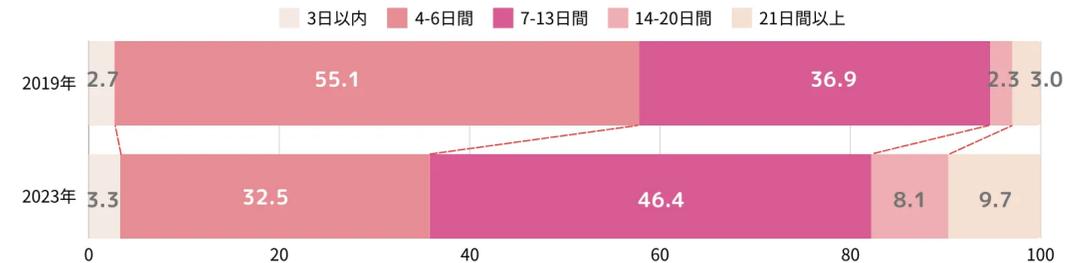
アフターコロナは旅行日数が長期化し、リピーター率も上昇

2019年と2023年における中国からの訪日旅行者の属性を比較してみると、コロナ禍を経て大きな変化があったことがわかります。

特徴的な変化

- ・ 30代の旅行者が減少し、40代の旅行者が増加
- ・ 旅行日数が大きく伸び、7日以上日本に滞在する人が64.2%に
- ・ 家族や親族との旅行が減少し、一人での旅行が3割超え
- ・ 訪日旅行リピーターも増加し、2回目以降が65%に

訪日中国人旅行者の滞在日数の推移



これらの訪日旅行者のトレンドから、最近の中国では特に、一人で気ままに旅行を楽しむ若者や独身者が増加していると考えられます。

また訪日リピーターも増えていることから、定番のゴールデンルートだけでなく、今後地方部への旅行者も増えていくことが期待されます。



Japan ticket